

昭和54年度 和歌山県名匠

【^{うるし}漆^{ぬり}塗】

^た田 ^{なべ}邊 ^{まさ}正 ^{よし}義

【現住所】 海南市
【生 年】 明治44年

職 歴

16才で海南市の漆器工場に就職して以来50余年、漆塗一筋に歩んできた。

現在この技術を有する人は海南市でもごく稀であり、その指導にあまっている。

業績の概要

漆器の下地、塗、仕上を習得した後、昭和3年漆器製造業を開業。この間、彫漆ちようしつに特に優れた技能を発揮し、昭和24年第5回日展入選をはじめ、近畿連合工芸展二等賞、海南漆芸文化協会市長賞、海南市美術漆器展市長賞受賞等、漆芸しつげいの振興のみならず、昭和30年には県漆器商工業協同組合理事、紀州漆工会副会長を歴任するなど、業界の発展にも努力してきた。

昭和43年からは、県漆器試験場に勤務し、伝統漆器塗りは勿論、新しい化学塗料の利用法などの研究にも取り組んでいる。また、根来塗の再現研究を続け、その秘法を解明したことは高く評価されている。

昭和48年からは非常勤技術嘱託となったが以前同様常勤し、研究と後継者の育成に努めている。